

大韓土木学会(KSCE) 年次総会報告

古木 守靖 土木学会 専務理事 土木学会 特別上級技術者

韓国の土木学会年次総会が2008年10月29日から30日まで開催され、学会からは栢原会長、日下部副会長(国際委員長)、石井前会長および筆者が出席した。

来賓の講演として、栢原会長から、会長特別講演に基づいて「Who Constructed It? (誰がこれをつくったか)」と題する基調講演



写真1 基調講演後KSCE郭会長から盾を受ける栢原会長

を、また韓国グワンジュ (Gwangju) 科学技術研究所のJ.H.Chung氏から「模倣から創造 (From Imitation to Generation)」と題する基調講演がなされた。

技術者の匿名性に関する問題意識は韓国においても同様で、支持する反応をいただきたい。またChung氏の講演は、韓国の研究開発

の歴史からその足跡を振り返って、GNPに対する調査研究費の上昇とその成果を検証し、さらなる研究投資の必要性を強調されていた。

昼食の後、ラウンドテーブルミーティングが「土木技術—融合と創造の技術 (Civil Engineering: The Technology of Fusion and Creation)」のテーマのもと、韓国、日本のほか、モンゴル、台湾お

よびICE(英国土木学会)の代表が参加して開催された。議長はKSCEの国際委員長のHa Won Song Yonseil 大学教授である。

日本からは国際委員長の日下部副会長が、研究の細分化、専門化の進展とその弊害を報告され、生物学と工学の融合の事例を引き合いに出されて、その必要性を強調された。またこのテーマをACCOC(アジア土木学会協会連合協議会)の研究テーマとすることを提唱され、了承された。細分化された学術体系の融合を実現するために、もっと関心を高めること、現場の問題を解決する姿勢が重要であるといった議論がなされた。顔なじみのメンバーであるがゆえに、ラウンドテーブルミーティングの議論が年々深化してゆくとの印象であった。

この後、インターナショナル・スチューデント・ラウンド・テーブルが在韓国の海外留学生15名の参加のもとに開催された。現在、韓国の土木系講座には海外から約130名の留学生が在籍しているそうで、日本の場合と同様、文化、言語などの悩みがあるとの印象



写真2 KSCE総会国際ラウンドテーブルミーティング出席者(2008年10月30日)

であった。30日夕刻には夕食会が開催された。KSCEの男声合唱団(Civil Harmony)は印象的であったとのこと(最後の2プログラムは石井前会長のみご出席)。

なお、KSCEの会長は元環境庁長官も勤めたDr. Kyul Ho Kwak氏、次期会長は元港湾協会会長のChong Kun Pyun教授である。